

第 106 回奈良県河川整備委員会 議事概要

日時：令和 6 年 3 月 25 日（月）10 時 00 分～11 時 30 分

場所：リガーレ春日野

出席者：

【委員】川池委員（委員長）、岡崎委員、久保田委員、倉橋委員、河本委員、小林委員、庄田委員、館野委員、福井委員、堀野委員

【事務局】奈良県県土マネジメント部 河川整備課

議事：

- (1) 第 105 回奈良県河川整備委員会の議事概要について
- (2) 委員のご意見への回答について
- (3) 進捗点検とりまとめ【大和川水系（平城圏域）】について
 - ・（環境モニタリング調査計画を含む）

(1) 第 105 回奈良県河川整備委員会の議事概要について

○川池委員長 「トン」という表現は正確ではないので「立方メートル毎秒」とした方がよい。
→指摘通り修正する。

(2) 委員のご意見への回答について

○河本委員 前回委員会での意見の趣旨は、今整備している箇所が整備後どのような感じになるのかを広報してはどうかということである。

○久保田委員 大和川ジャーナルなどの広報はよかったと思うので今後も引き続きやってもらえればと思う。

(3) 進捗点検とりまとめ【大和川水系（平城圏域）】について

○岡崎委員 調査時期に春が追加されたことで情報が充実してよいデータになってきている。対照区間は、工事による川の変化や工事以外の要因を含めた変化を比較するものであり、その区間の選定は早めにやってもらい、調査を継続してほしい。また、調査で得られたデータは公開し専門家が活用できるようにしてほしい。

→情報の取り扱い方法は検討する。

○久保田委員 植物や魚類、底生動物は関連して生息しているので貴重なデータがとれており良いことである。大和川ジャーナル第 14 号の 6 頁の写真は菖蒲湯に使われる石菖が生育している。この場所は、天理市の街中にあり、このような水辺を大切にもらえるといい。奈良は雨が少ないため上手に水を利用してきた歴史があり、布留川では一ノ井分水により布留川と布留川北北流に分派させている。このような歴史を踏まえ、資料 3-3 の 5 頁の図は分水を記載してほしい。

→県管理河川の地図を確認して追記する。

○堀野委員 「進捗点検区間」の文言はわかりにくいので修正していただきたい。また、調査の名称についても植物相調査や植生調査、植生図作成調査が混在しているように思うので、確認して修正して

いただきたい。面的調査という表現も多くの調査が面的なのでわかりにくい。広い範囲であれば広域調査、狭い範囲であれば集約調査といった表現がよいのではないか。

→どのような表現にするとわかりやすいかを検討し、文言を修正する。

○岡崎委員 動植物のリストができていますので調査名に「相」をつけることでよいと考える。対照区の考え方は、当初は川の変化を見る箇所という位置づけと、事業箇所との比較箇所という2つの位置づけであったが、今は事業箇所との比較箇所という意味合いが強いように感じる。どういう視点で対照区を設定するのかといった方針を再考していただきたい。

→環境調査の名称は修正する。対照区の考え方は再考して設定したい。

○堀野委員 外来種が増えることは良くないことと考えるのか、多様性がある良い環境と考えるのか、評価の考え方を今後、設定する必要がある。また、環境に関する評価を区間で考えるのか、川全体で考えるのかといった、評価方法も考えていく必要がある。資料3-1の3頁の写真は、工事直後はコンクリートだったが現在は植生が繁茂して良い環境だと考えがちだが、治水面からみると粗度係数が上がり、水が流れにくくなる面もある。計画上、どの程度の植生回復を見込んで粗度係数を設定しているのかを教えてください。

→多様性や治水と環境保全のバランスをどう考えていくかについて、明確にできていない状況であり、今後、ご意見をいただきながら設定していきたい。